

1人1台端末の導入に向けて

2021・11・4 重枝 一郎

思い起こせば12年前、私は福岡市教育委員会で主任指導主事をするようになった。様々な分担業務はあったが、福岡市の情報教育推進のリーダーの役割を任せられた。当時（今も？）の私はその分野の実績は皆無に等しい人間であり、「マジか！俺でいいはずはない！みんなよく考えろ！」という心の声が、実際の声として発するほどの状況であった。まあ任されてからは、アイディアは出すが、自分ではスムーズに説明ができないというリーダーで、周りにいたICT活用授業に意欲的な人に助けられながら多くの実践例をどんどん発信していった。そして、現在、本校でも柿原先生を中心にICT推進委員会のメンバーのおかげで環境整備、利用促進は着実に前進している。私を含めた苦手な先生は「機嫌よくついていく」をルールとして明るく研修会も行えている。ちなみに私は、ルーキーの松原先生を師匠と仰ぎ、いつも助けてもらっている。

さて、本校も来年度から1人1台端末の導入を行う。全国的に見ても教育委員会が研修に力を入れている自治体、ICT支援員の支援・サポートなどがあるところでは利用率が高いということがわかっている。本校も今後の支援体制は考えていく必要があると思っている。ただ、みなさんが気にするところでもある、利用率の向上と学力の相関関係は現在は明らかになっていないのも事実である。

この端末活用で大切なのは、一言でいえば「やらなければならない」ということである。やってみて初めて分かるところが多いということである。そして、多少機能を使えるようになれば、各教科等の授業にも生かせるようになる。そうしながら経験値を上げていく。それに伴って、端末の「使用」は「活用」になり、その時間は「体験」から「学習」へと変わっていく。学力との相関を図るのはそこからになると思う。

オンライン授業をした教員の話で「私たちは一生懸命オンライン授業をしたけど、それが本当に生徒に届いていたのだろうか」と疑問を感じていたと聞く。また、「授業を届けることばかり考え、その学びの主体が生徒になっていないのではないか」という話も聞いた。私は、とてもいい気づきだと思った。その後、その教員は「生徒が自ら学びをつくっていくにはどうすればいいか」を考え、オンライン授業の経験を生かしながら、教室での対面授業のやり方を変えていった。これはまさに私がいつも言う「変化から進化」になる。こういう「変化から進化」がたくさん増えたらいいと思っている。

また、学級経営が今一つうまくいかないと、それは端末でも負の影響が出る。学級経営といっても、それは生徒を縛り付けることではない。例えば、人は、自分の言葉を通して、悪気はなくても相手を傷つけてしまうことがある。それは「メディアを通して」でも同じである。日常の生活の中で、自分で人を傷つけていないかどうかをチェックしたり、そうならないように考えたりするのも大事な力の一つである。つまり、端末の使用ルールづくりも、これまでの学級のルールづくりと同じである。今現在、クラスみんなが安心できる「維持ルール」をつくっているか、もっとクラスがよくなるようにと「向上ルール」をつくろうとしているか、それが端末利用にも影響する。そのことを生徒に認識させる必要がある。だから、生徒会を中心として、クラス委員に学級のルールについてどんな感じなのか調査し、考えさせることはやったほうがいい。端末に限らず、何かを取り入れたり取り組んだりするときは、今の自分、今の自分たちを振り返ることが大切である。人は振り返りからしか学べない。

【よかったら！】福岡市教育センターのHP→関係機関等LINK→（右下の方）生徒指導総合講座（風土会）の中に「会報」があります。いろいろな私の学級経営等の実践等を紹介しています。